

謹賀新年

平成31年1月号のトップオピニオンは、未来構想PFの、山本会長をはじめとする8人の理事の年頭所感です。

- | | |
|--------------------------|----------|
| ① 「先の見えない時代」をどう生きるか | 会長 山本 卓朗 |
| ② アジアにおける都市と鉄道に関する法制度の改善 | 理事 森地 茂 |
| ③ TOD Practice in Japan | 理事 矢島 隆 |
| ④ 東京圏公共輸送の一層の改善を図るには | 理事 只腰 憲久 |
| ⑤ 溢れ返るプラットフォーム | 理事 斉藤 親 |
| ⑥ 地方都市の中心市街地の状況 | 理事 田中 滋夫 |
| ⑦ 平成から新元号へ | 理事 溝畑 靖雄 |
| ⑧ 新年を迎えて | 理事 藤森 伸一 |

「先の見えない時代」をどう生きるか

会長 山本卓朗

明けましておめでとうございます。

1年があっという間に過ぎ去っていきますが、それにしても毎年経験したことの無い出来事が繰り返されて「いや、大変な年だったね」と述懐ながら過ごしています。国際政治は一言でいえば"はちゃめちゃ"、旅をすればインバウンドの予約で一杯、梅雨や台風は年々巨大化、去年も多くの被災者を出してしまいました。少子高齢化を実感することも多くなりました。最近のベストセラー河合雅司著「未来の年表」では、人口の急激な減少で何が起こるかを年表的に記載し、政治家の「少子高齢化に歯止めをかける」という演説は、あまりにも楽観的過ぎると強い警鐘を鳴らしています。

どうもお先真っ暗で、まさに「先の見えない時代」に入ったなと思いつつも、手をこまねいているとゆでガエルになるのは確実です。私が良く使う言葉に「思考停止社会」というのがあります。コンプライアンスを法令順守と訳したために、お役人も企業のトップも法令規定にがんじがらめとなり、未来に向けて新しい発想をする機運がまるでなくなってきたように感じます。今年こそコンプライアンスの呪縛を解き放って、"しなやかに、したたかに、大胆に"過ごそうではありませんか。

難しい事態に直面しても、冷静沈着に柔軟に、将来の方向をきっちりと見定めて、力強く決断する。もちろん言うほど簡単ではありませんが、多くの仲間と意見を闘わすことで答えを見出すことが出来るでしょう。

今年も未来構想PFはしっかりと将来ビジョンを追いかけていきたいと思います。

本年もよろしくお願いいたします。

アジアにおける都市と鉄道に関する法制度の改善

理事 森地 茂

平成 27 年度から JICA と政策大の協力で SPRI (Strategic Policy Research and Innovation) Program が始まっている。ASEAN 諸国政府の課長・部長級の人材に対する、法制度改革のための研修である。日本の関係省庁の協力も得て、日本での 2 週間の研修を 2 年間で 6 回行い、提言をまとめて、自国で大臣、局長をはじめ専門家の参加するセミナーを行い、制度改革を推進するものである。

筆者と UR の国際室長と、国交省の鉄道局・都市局が指導しているミャンマーの住宅政策担当部長と都市計画担当課長の研修内容は以下の通りである。都市計画制度、土地収用関連制度、住宅制度について、①ミャンマーの課題、②関連法制度の歴史的変遷、③日本の制度との国際比較、④ミャンマーと日本の具体的プロジェクトの比較分析、⑤その背景としての法制度の改善策の提言を Policy Paper としてまとめるのである。大臣、次官、局長も参加した 12 月の現地セミナーでは建設的議論がなされ、海外からの投資のためには、用地取得などに関する制度改革が緊急の課題であると認識されているようであった。ベトナムからも用地取得に関する研修が今年度終了するが、両国では土地登記や土地鑑定制度を導入するための日本の法務省による支援も始まっている。

来年度は、ミャンマーからの TOD (鉄道沿線開発 : Transit Oriented Development) の研修生が決まっているが、すでにタイからも TOD の研修生を今年度から受け入れている。

インフラ輸出推進のバックアップとして、日本の事例も参考にした法制度の改革には、関連日本企業の意見反映が必要不可欠であり、また、日本人社員がこの分野の専門性を持つためにも、このような事業に民間企業が関与する意義があるのではなかろうか。

(政策研究大学院大学)

TOD Practice in Japan

理事 矢島 隆

鉄道分野の海外展開が政府主導で進められている。その際に、鉄道システムや車両だけでは国際的な価格競争に不利であり、我国の得意分野である街づくり分野と抱き合わせていわゆる TOD (Transit Oriented Development) の形をとることが望ましいとされている。しかしながら海外に我国の TOD を紹介するにしてもまとまった英文のテキストがないのが難点であった。実際、私が依頼を受けて行った国連大学・JARTS 等の主催による開発途上国鉄道関係者向け研修 (2018 年 2 月) やアジア開発銀行鉄道担当職員研修 (2017 年 6 月) における講義はいずれも英文の PPT を手作りせざるを得なかったのであった。

そうした背景から国土交通省都市局の予算により、家田先生と筆者の共著である「鉄道によって創り上げられた世界都市・東京」(2014 年 3 月、(財) 計量計画研究所) の英文訳が進められ、原著を分担執筆した方々を主とするチームによって訳文・訳語の修正・校閲が行われ、昨年末に 2 年越しに一応の完成をみた。修正・校閲の作業も全くのボランティアベースで行って頂いた点も含め、校閲チームの方々には厚くお礼を申し上げる次第である。

英語版のタイトルは、"TOD Practice in Japan ; Tokyo, A Global City Created by Railways (1st Edition)" である。

英語版は原著の全体を翻訳したものではなく、鉄道の海外展開に有用と考えられる章節を抜き出して英文化したもので、全体の分量の約 6 割を英訳したものである。国土交通省は、新年 3 月末を目途としてホームページ、印刷物等の形で英訳版を公表する予定である。

我国が 20 世紀を通じて実行してきた TOD の実績が広く海外に発信され、今後の開発途上国を初めとする各地で鉄道プロジェクトに併せて、現地の実情に合わせた TOD が展開されることを願ってやまない。

2019 年の私の初夢と言えようか・・・。

(区画整理促進機構)

東京圏公共輸送の一層の改善を図るには

理事 只腰憲久

東京圏は、今後夜間人口の減少が見込まれるなかで、その交通状況は一服状態ともいわれるが、一方で昼間人口の増加やインバウンドの増加に象徴される交流人口の増加も予想される。かつては通勤輸送への対応に追われていたが、郊外鉄道は先が見えてきた感もある。しかし都心部に位置する路線は、諸外国と比べても朝夕のみならず昼間の時間帯でも混雑していると感じられる。今後は、こうした現状を改善し、快適な輸送の実現に向けて関係者が努力を積み重ねるべきであろう。

なかでも、東京圏に 9 路線 320 キロに及ぶ路線網を持つ東京メトロの一層の活用が求められている。同社は 2004 年に会社化して以来、黒字基調が続いている。それ自身は好ましいことかもしれないが、前身の営団の時代から儲けるための会社ではないはずである。現在は出資者である国と都に高額の配当をしている一方で、財務省からは新規投資は許されていないと聞く。会社である以上、JR 東海の例を見るまでも無く、本来減価償却見合いの投資をしても良いはずである。まだ十分使える電車の置き換えや、弥縫策でしかない中間駅の 2 面 3 線化などの疑問符がつく設備投資では、十分な役割を果たしているとはいいがたい。

例えば、東葉高速との直通化もあって輸送力の限界が来ている東西線については、有楽町線への乗り入れを行いつつ部分的な複々線化を検討すべきであろう。乗り切れない混雑が常態化している銀座線は、今後の沿線の都市再開発の進展でますます殺人的な混雑をきたすに違いない。かつて一部着手したものの放棄した長編成化に、困難でも再び取り組むべきではないか。また、将来に向けて開発が進む品川までの地下鉄線の延伸に名乗りを上げ、その整備に取り組んでもいいのではないか。

財政的にも技術面でも潜在的な実力を備えた東京メトロが、真に有効な都市交通施策に貢献できるような仕組みづくりが、いまや求められている。

(小田急電鉄)

溢れ返るプラットフォーム

理事 斉藤 親

色々な人が行き交い触れ合うプラットフォームは、本会の名前の由来。ところが最近、山手線周辺などの一部の駅で、行き交い触れ合うどころか、人が溢れ返り、果ては入場制限といった事態が増えていると聞く。私の住んでいる品川区大井でも、JR と東急が交わる大井町駅の朝夕混雑は悪化の一

途で、静かだった西大井駅でも乗降客の急増を肌で感じる。

国が人口減少時代に突入する中、東京は当分の間増加を続けると言われているが、鉄道駅から見ると、何が起きているのか、もう少し詳細にみる必要があるようだ。大崎・武蔵小杉に代表される駅周辺再開発が乗降客増をけん引してきたことは言うまでもないが、新たな視点として二つ挙げておきたい。一つは若年層に顕著な「駅周辺居住」志向で、車離れとも相まって既に、北千住・日暮里や京葉線東京近傍などで見られ、住宅業界では今後更に進むと見ている。もう一つは、特に今後本格化が予想されている「サテライトオフィス」の進展で、JRの新たなエキナカ展開も一役買うことになるだろう。

この二つは、従来の郊外と都心を結ぶ大都市通勤交通のパターンを完全に変えてしまう意味があり、結果として、鉄道駅や車内に新たな課題を提起することになるであろう。是非、鉄道のみならず都市の在り様も含めた総合的観点から、「望ましいプラットフォーム」論議を期待します。

(東日本旅客鉄道)

地方都市の中心市街地の状況

理事 田中滋夫

新年あけましておめでとうございます。ここしばらく、地方都市の中心部再生を現場で手伝い続けています。

震災復興と絡んで、石巻の中心部再生を手伝っていたが、担当していたプロジェクトがひと段落ついたので、今は主として中国地方の中都市市街地の蘇生に取り組んでいます。

地方都市の中心部は、高度成長期の繁栄が著しかった所ほど反動で市街地劣化が激しい。成長期からかなりの期間、集中的な建設投資がなされ、それが今になって激しく劣化をきたしているからである。中心部の再生はよくソフトからと言われるが、私の考えではハードが邪魔をして、ソフト展開をしたくとも出来ない。言わば両足縛られて走れと言われているようなものである。交通、歩行環境、建物利活用の相互が組み合わせ劣化を起こしており、その抜本的な対策を講じることが出来ない状況におかれているのである。

例えば、私が主としてたずさわる建物の利活用でいえば、建築基準法の度重なる改正、要求水準のレベルアップにより、多くの既存建物のリニューアル改造、ニーズに合わせた用途変更は現実的にはハードルがものすごく高く、殆ど手がつけられない。やむを得ず解体を考えても多くの規制からコストと時間がかかり、更地にするコストが地価を上回るケースが多い。無理して更新しようにも成長期までの商店街の道路は狭く斜線制限で高度利用は出来ない。

「活用できない、建て直せない、解体、更地化も出来ない。」課題は解っているが、ハード上の制約が解決に向けての根底を縛っている。根幹的なハード規制が組み合わせ的に形成されており、打開の目途がつかない。これが地方中心市街地の状況である。

このような中で少しでも何とか出来ないか、思い切った対策を取って見ようと決意した街を手伝うべく、しばらくは地方通いを続けるつもりです。本年もよろしく。

(都市デザイン)

平成から新元号へ

理事 溝畑靖雄

飛鳥時代の大化に発する元号（平成）は、平成 31 年 4 月 30 日の平成天皇の退位にともない 5 月 1 日には新元号が公布される。明治以降一世一元制となり「昭和」が 64 年と歴史上もっとも長い年号であるが、その後、31 年続いている平成と合わせるとほぼ一世紀に近い昭和・平成時代は、今後比較されながら語られることになるのは昨今のメディア報道を見るとおりであるが、未来に向けて次の元号の時代は？と考えるのも自然の流れであろう。

昭和と平成をもっとも際立たせるのは戦争の有無であろうが、戦後の著しい経済成長が、平成に入ってからバブルの崩壊と共に低成長時代に入り、未だに元に戻らないなど二つ時代には異なるものも多い。

鉄道のように経営形態は民に変わったものの、提供するサービスは変わらないが、同時に民営化された通信分野のように経営形態も提供サービスも大きく変わった分野もある。

昭和 47 年頃、経済企画庁で国の「社会資本整備 5 年計画」を担当していたが「これから通信網が発展して鉄道輸送を補完出来るので電電公社の予算を増額すべし」に対して「通信が便利になればなるほどフェイスツーフェイスの旅客が増加する」とそれぞれの分野に対する国の投資額を競い合った事を思い出す。通信分野は GAFA の基盤を支える技術として成長を遂げたが、コンピューターなど IT の新分野との連携で新しいものが生まれてくるのも当然であろう。

東京オリンピックと大阪万博の時代に当時の国鉄に飛び込んだだけに、昭和の隆盛を再現するために平成時代に粘り強くタネをまき、来たるべき時代に大きな夢を持たせる東京オリンピックと大阪万博を再度決定した事に強い感動を覚える。もちろん 55 年余の歳月は、少子高齢化、人口減少、過疎化など当時とは異なる社会背景の相違をもたらしてはいるものの、いつか来た道を歩む思いで新しい時代を切り開く好機を逃がさないようにと思う年の初めである。

(JR 東日本コンサルタンツ)

新年を迎えて

理事 藤森伸一

新しい年を迎えました。今年は年号が変わる節目の年です。また、東京オリンピックパラリンピックの開業まで 1 年となり、準備に忙しい年となります。ラグビーワールドカップが開催され外国から多くのお客さまが訪日することでしょう。また、参院選や統一地方選など選挙の年でもあります。10 月には消費税の増税が予定されています。様々なことが行われ、色々な要素が混ざり合い、どんな年になるか予測は難しいですが、新年号の元年にふさわしい活気に満ちた明るい年になることを期待します。

10 歳の女子の囲碁プロ棋士が誕生することが報道されました。あどけなさの中に確たる自信を感じます。将棋、卓球、フィギアスケートなど 10 代の若者の活躍に目を見張ります。少子化と言われていますが、多くの小さなダイヤが大きな光を放っています。未来の光を感じます。

新年早々、山手線における自動運転の映像が公開されました。いよいよ日本でも通勤電車の自動運転が実現しそうです。IOT、AI、ビッグデータ、ロボットなどの技術が進化しています。人口減少や少子高齢化などの様々な課題を抱えていますが、解決策に向けてこれまでになく変化も感じます。

今年も皆様とともに「未来構想プラットフォーム」を通じて交流をはかり多岐にわたる情報を交換していきたいと思います。本年もよろしくお願いします。

(鉄建建設)

土木へ向けられた外からの言葉

(土木学会誌 2018.12 抜粋)

土木学会誌に、2015 年 1 月から 4 年間続いて連載された「外から見える土木」が昨年 12 月で最終回を向かえた。異分野で活躍されている方に、土木のイメージ、土木へのメッセージを伺ったものである。その中から土木を考える視点として「土木技術者としてのありかた」「人間社会と土木の関係」「これからの土木への期待」の 3 つの視点から厳選したものを紹介している。

■土木技術者としてのありかた

- ①結局は「人」、その「志」にかかっている
- ②橋をつくる、トンネルを掘る、そうした時にウソをついたらどうなるか。土木を志すということとは命を預かるということ
- ③"物"をつくる"者"の心を正しく育て上げなければ、よい"物"はできない
- ④誰かが手を抜けば、技術はそこで絶える
- ⑤日本の土木技術者は、臨機応変にさまざまな状況や課題に対応できる「適応的エキスパート」
- ⑥人はなんのために生きているのですか？人の役に立つためです

■人間社会における土木とは

- ①人の命と社会に責任ある仕事
- ②土木の行為はなんだろうか？「掘る」？「積む」？「支える」？どれも違う。たぶんそれは「読む」だ。向かい合うべきまなさらさをよく読み、引き受け、折り合う。お天道さまとそこにつくり上げた自分たちの成果。それらへの畏怖と、無言のうちに頭を垂れる心境。土木が匿名なのは、そういう心持ちの表れなのかもしれない
- ③文明の二大基礎は、法律の整備と Military&Civil Engineering
- ④一般の国民は日常生活を送る上で、土木について特に気にするということは、ほとんどない。このことは決して悪いことではなく、それだけ土木を信頼し、当たりまえの物として安心して受け入れているから
- ⑤インフラストラクチャーというのは、書物に例えれば辞書や百科事典に近い。用をなす期間の長さやカバーする領域の広さ、万全で漏れがないこと、安全性が確保されていること

■これからの土木への期待

- ①日本の土木にも美学や哲学がもっと発揮されていていい
- ②そこで暮らす人が主役になれるまちづくり、後世に禍根を残さないような永続性のあるまち空間の再構築を
- ③国民に信頼され、その先にある安心を提供し続ける
- ④土木工事なしに社会は成り立たない。「誰のため、何のための」事業なのか？をいつも念頭においてほしい

土木への信頼や期待、土木技術者として誇らしく思うと同時に身が引き締まる。私たちも外からの言葉に謙虚に向き合い、先人が勝ち得た信頼関係を引き継いで築いていかなければならない。

たすきリレー

食べたい名物駅弁

車窓の景色を眺めながら食べる駅弁は、鉄道旅行の楽しみのひとつ。全国津々浦々に数千種もあるのは日本だけだそうである。調査方法は、朝日新聞デジタルの会員登録者を中心に、駅弁のイベントなどで人気の駅弁を参考にして、「駅弁女子日本全国旅して食べて」の著者『なかだえり』さんと作成した約90種類のリストから五つを選ぶアンケート方式で実施。「もう一度食べたい」「食べてみたい」駅弁のランキング上位には、郷土色の強い個性派弁当が揃いました。

(朝日新聞2018.09.08より)

RANKING	
1 あなごめし(広島・宮島口駅) 346票 鉄道開通に合わせて地元の茶店「うえの」が考案。アラだしで炊いたご飯に、秘伝のタレで焼いた一口大のかは焼きがびっしり。1944円	7 うなぎ飯(浜松駅) 207 身はやや小ぶりだが、ふっくらと焼き目もしっかりして味は確か。自笑亭の簡易パッケージの弁当は1780円
2 峠の釜めし(群馬・横川駅) 301票 釜子焼の土釜に入った駅弁の代名詞ともいえる存在。茶飯にのる具材は無添加。峠の釜めし本舗おきのやが1958年に発売。1000円	7 うに弁当(岩手・久慈駅) 207 蒸したウニがこれでもかと敷き詰められ、炊き込みご飯にも磯の香りが漂う。三陸リアス亭。1470円
3 網焼き牛たん弁当(仙台駅) 264票 麦飯の上には塩・コショウが利いた仙台名物の厚切り牛タン。ひもをひくと温まる加熱式容器。こばやしのロングセラー駅弁。1050円	9 柿の葉すし(近鉄奈良駅) 181 サバ、サケ、タイなどの詰め合わせも。柿の葉すし本舗たなかの甘酢で上品な味のタイ7個入りは1512円
4 いかめし(北海道・森駅) 228票 丸ごとイカ2杯にうるち米ともち米を詰めてボイルし、甘辛のタレで味付け。いかめし阿部商店の引っぱりだこの人気駅弁。780円	10 牛肉どまん中(山形・米沢駅) 172 山形新幹線の開業を記念して新件屋が考案。山形県産米どまんなかを牛肉煮と牛そばろが覆う。1250円
5 ますのすし(富山駅) 214 丸い木の器を開け、ササの葉をむくとほどよく脂がのった桜色のマスと酢飯。ますのすし本舗源(みなもと)のパッケージは中川一政画伯が描いた。1400円	11 かにめし(福井駅) 170
5 米沢牛炭火焼特上カルビ弁当(山形・米沢駅) 214 香ばしくジューシーな特上カルビの焼き肉に、シューマイ2個がつきボリューム満点。老舗の松川弁当店が米沢牛にこだわったぜいたくな一品。1800円	12 うなぎ弁当(静岡・新所原駅) 165
	13 シウマイ弁当(横浜駅) 131
	14 ひつまぶし(浜松駅) 118
	15 かきめし(北海道・厚岸駅) 114
	16 特撰元祖牛肉弁当(三重・松阪駅) 99
	17 前沢牛ローストビーフ肉巻にぎり寿司(岩手・一ノ関駅) 97
	18 山陰鳥取かにめし(鳥取駅) 94
	19 鮎すし(熊本・人吉駅) 83
	19 おたる海の輝き(北海道・小樽駅) 83

NEWS

■2019 年 企業トップ年頭所感

仕事始めの1月4日、多くの企業トップが年頭所感を表明した。

人工知能（AI）の普及、あらゆるモノがネットにつながる「IoT」の進展に伴うビジネス環境の激変を踏まえ、「イノベーション（革新）」の大切さを訴える経営者が相次いだ。2018年に不祥事を起こした企業では、コンプライアンス（法令順守）強化の発言が目立った。

企業が置かれている事業環境が現在、大きく変化していると考える経営者が多く、**三菱商事**の垣内威彦社長は「人類が火を見つけたような強烈な産業革命下に入っている」と表現。そのうえで「若手や中堅社員は成長の芽を伸ばし、収益の柱に成長するような構想力を養ってほしい」と訴えた。**博報堂**の水島正幸社長は、「社員が成長し、もっとサプライズ！を生み出す会社へ」と述べた。**森ビル**の辻慎吾社長は「変革の年」だとして、強い“個”の集合体こそが強い“組織”、臆することなく困難なことに挑戦し、チャンスを活かして成長してほしいと述べた。

NTTの鶴浦博夫社長は「自己変革を進め、国内外での協業を通じた新たな価値創造を目指したい」とし、変革とともに「協業」の重要性を強調。**ソフトバンクグループ**の孫正義会長兼社長も「多岐にわたる投資先企業との協業でさまざまな化学反応を起こし、新しい価値を提案して世界の変革を推し進める」と述べた。

トヨタの豊田章夫社長は、自動車業界は「100年に一度の大変革の時代」に入っているとし、世界中の人々の「移動」に関わるあらゆるサービスを提供する会社を目指すと述べた。**住友商事**の中村邦晴社長は、「世界的な地政学リスクの高まりは容易には緩和されない状況が続くそう」として、働き方改革の継続、壁を越える意識、夢を持ち実現に向け努力する姿勢をと社員に訴えた。

企業が大競争を勝ち抜くうえで、活路となるのが技術力だ。**コニカミノルタ**の山名昌衛社長兼最高経営責任者（CEO）は「自社が強みとする技術を深掘りし、先進デジタル技術と組み合わせて市場開拓することが今後の事業創出には不可欠」と語った。**KDDI**の高橋誠社長は、「通信とライフデザインの融合本格始動！」とし、厳しい年となるが新たな5G時代に向けて挑戦し是非とも実現させたいと訴えた。

18年に問題が発生した企業は、新たな年を迎え改めて気を引き締める方針だ。

大手ゼネコンでは17年12月に、リニア中央新幹線の建設工事を巡る入札談合が明らかになった。**大成建設**の村田誉之社長は「今後このような嫌疑を受けないよう、コンプライアンスの徹底に取り組む」と述べた。新幹線「のぞみ」の台車に亀裂が入るトラブルが発生した**JR西日本**の来島達夫社長は「安全確保こそ使命だ」と表明した。

その他のJRグループでは、**JR東日本**の深澤裕二社長が「自らの力で新たな時代を切り開き行動を積み重ねていこう」、**JR東海**の柘植康英社長が「大きく前進する年にしたい」、**JR九州**の青柳俊彦社長が「長期的視点が重要」、**JR四国**の半井真司社長が「新しい時代に躍進するきっかけの年に」、**JR貨物**の真貝康一社長が「具体策実行を加速させたい」、**鉄道総研**の熊谷則道理事長が「総合力発揮を」と、それぞれ社員に訴えた。

■最近の気になるニュース

岩井有人さん（JR 東日本東京工事事務所）の Facebook より抜粋させて頂きました。

① MaaS(マース)交通サービス、日本企業で動き活発 (12.24)

欧州が先行する形で利用が進む MaaS(マース)と呼ばれる次世代の新交通サービスを巡り、2019 年から日本でも企業の動きが活発化する。スマホの専用アプリに目的地を入力し、どういう移動手段を乗り継げば最短時間で到着できるかの情報提供や一括決済が可能。

② 政府、東南アジア環境都市化へ協力 (01.01)

政府は ASEAN に加盟する国の 26 都市で人工知能や IT を活用したスマートシティの開発協力に乗り出す。都市人口の急増による交通渋滞の緩和など街の機能を効率化し、エネルギー消費量を減らしたり、生活の質を高めたりする事業を支援する。

③ 自動運転、大量定年に備え (01.08)

JR 東日本は 7 日、山手線で電車を自動で走らせる実験を報道陣に公開した。JR 東日本が同業他社に先手を打ち自動運転に力を入れるのは、55 才以上の社員が全体の約 4 分の 1 を占め、多くの運転士や車掌が定年に差し掛かっているため。

- ・ダムなどのインフラを地域の観光資源とする「インフラツーリズム」、各地で活況 (01.14)
- ・大阪万博、会場となる人口島「夢洲」へのアクセスに難題 (01.06)
- ・先端技術研究、中国が 8 割で首位、ハイテク覇権に米警戒 (12.31)
- ・韓国と北朝鮮は、南北間を結ぶ鉄道・道路の連結に向けた着工式を開く (12.27)
- ・充電 1 回で東京～大阪間 500 km を走れるリチウムイオン電池技術の開発が活発 (12.24)
- ・人口自然減 44 万 8 千人、過去最大を更新 (12.21)
- ・東京駅の地下道（街）、全長 18 km に (12.20)
- ・地球温暖化対策の枠組み「パリ協定」2020 年から適用 (12.17)

■シビル NPO 連携プラットフォーム (CNCP) が会報 第 57 号 を発行

- ◇シリーズ 「土木ということば」第 9 回 近代辞書と「築土構木」
- ◇巻頭言 改めて「土木は市民工学」 山本卓朗会長
- ◇コラム 地方創生のキーワード“元気なジジィ、バアバア”
- ◇オピニオン 東名高速道路「あおり運転」事故判決に思う
- ◇トピックス JFMA 公共インフラマネジメント連続シンポジウム報告 (2)
- ◇NEWS 1 展示会出展「社会インフラテック 2018」
- ◇NEWS 2 世の中の社会課題を本業で解決する CSV 事業
- ◇土木と市民社会をつなぐ 第 1 回 シリーズ開始にあたって
- ◇会員紹介 特定非営利活動法人 建設技術監査センター
- ◇部門活動紹介 協働推進部門 初級ファシリテーター養成講座開講
- ◇会員からの投稿 都市再生推進法人「株式会社まちみとラボ」
- ◇パートナーからの投稿 桑名市における「アセットマネジメント」の取り組みについて

*詳細はCNCP事務局にお尋ねください。

Email: info@npo-cnnp.org Homepage: <http://npo-cnnp.org>

今月の国際比較データ

① 1戸あたりの平均床面積 出典：世界の統計（総務省統計局 2009 年版）

日本の家は、昔は「ウサギ小屋」にたとえられていた。2009 年の統計によればアメリカの半分もないが、ヨーロッパの家に比べればせいぜい 2 割くらい狭いだけである。狭い理由として、東京や大阪といった都会の家の面積が、土地の値段が高いことから狭くなっていることがあげられる。参考に、都道府県別の 1 住宅当たり延べ面積を示すが、富山県や福井県の家ならヨーロッパの家にならぶと広い。



② 若者の挑戦する意欲 出典：朝日新聞 2019.01.07

投手と打者の二刀流で大リーグ新人王に輝いた大谷翔平選手、常識破りの二刀流提案の日ハムに入り、大リーグ入りも投手と打者の挑戦に最適だと思う球団と時期を選んだ。米バスケットボール協会（NBA）デビューした渡辺雄太選手は、米国の大学に進学する際、前例が無いと言われたが「行かなきゃわからない」と挑んだ。アイスホッケーで米国 1 部リーグの大学に進んだ初めての日本人選手の一人三浦優希選手は「苦しい挑戦こそ喜びも大きい」と言う。

超高齢化・人口減社会に向かう日本には、前例のない課題が待ち受ける。その時大事なものは、3 人のように新しい道を切り開く力だ。しかし 14 年の内閣府「子ども・若者白書」では逆の兆候がうかがえる。



PF書店

① 除染と国家 日野行介著 集英社新書

原発事故による放射能汚染に対し、国は土木工事による巨額の「除染」事業を行ってきた。福島第一原発事故に伴う放射能汚染土は最大 2200 万³で、2018 年 3 月、除染作業は概ね終了と報じられた。除染の対象は基本的に宅地と農地のみだが、除染費として 2016 年度までに 2 兆 6250 億円が支出されている。汚染土はフレコンバッグと呼ばれる大きな袋に詰め、中間貯蔵施設に運ばれるが、地域によっては庭先等に埋められた。これら汚染土の処理にあたり、「除去土壌等の再利用に係る放射線影響に関する安全性評価検討 WG」が開催されているが、毎日新聞の記者である著者は 5 年にわたる取材から、国家に対する不信感を募らせている。

② 「原因」と「結果」の法則 ジェームズ・アレン著
坂本貢一訳 サンマーク出版

1 世紀以上も読まれ続けている伝説の著で、デール・カーネギー、オグ・マンディーンなど、現代成功哲学の祖たちが影響を受けた。

あらゆる結果は自分の考え方に原因がある。ネガティブをポジティブに変えられるのは自分の思い次第で、この本を読めば心を強化してくれるという。ある会社では、マイナス思考の社員に本著を読むことを勧め、業務内容が向上したという実績もあるとか。

③ メルカリ 稀代のスタートアップ、野心と焦りの挑戦の 5 年間 奥平和行著 日経 BP 社

スマホを使って個人が物品を売買するフリマアプリ市場は 5 千億円近い規模に成長。後発のメルカリがなぜ、約 6 割のシェアを占めるほどの強さを持つに至ったのか。創業者の一人山田進太郎のもとに参集した面々の群像劇を経済紙記者が描き、その疑問に迫る。2 人の創業者をはじめ、ネット業界の各分野で活躍する男女が磁石に吸い寄せられるように集まり、優れた知恵を結集し、投資家から豊富な資金の力も得て、先行する競争相手を圧倒していった。創業から 1 年弱で米国に進出、日本の起業は小粒という冷めた見方を、この集団は打破してくれそうな期待を抱かせる。



事務局通信

◇投稿募集

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

会員間の交流を目指してスタートした PF 通信、武骨な編集スタイルのまま、発行から 6 回目の新年を迎えました。多くの方からの投稿を掲載していきたいと思っていますので、ニュースやご意見はもちろん、身近な出来事でも結構ですので投稿歓迎です。

(事務局)

● 今月の写真コーナー ● ~

20 数年ぶりの大雨の中、ニューヨークのタイムズスクエアで、12 時間ほど寒さと雨に耐え続けてカウントダウンを迎えました。(JR 東日本コンサルタンツ 小林蘭美さん)



「年越し前」(ニューヨーク)

友人が準備してくれた日本のお正月！

セキュリティチェックを無事通過出来、なにより・・・



「カウントダウン」(タイムズスクエア)

毎年の元旦恒例行事である初日の出と初富士拝み。今年も八王子城址から関東平野を一望できるスポットで初日の出を待ちましたが、今年は房総半島上に厚い雲があり、雲を抜けての立派な日の出となりました。

富士山は富士見台からの眺望で、綺麗に望めました。(JR 東日本東京工事事務所 岩井有人さん)



「初日の出」(八王子城址より)



「富士山」(富士見台より)

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。
連絡先：未来構想 PF 事務局 土井 携帯：090-9150-8613 メール：info@miraikoso.or.jp
〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28